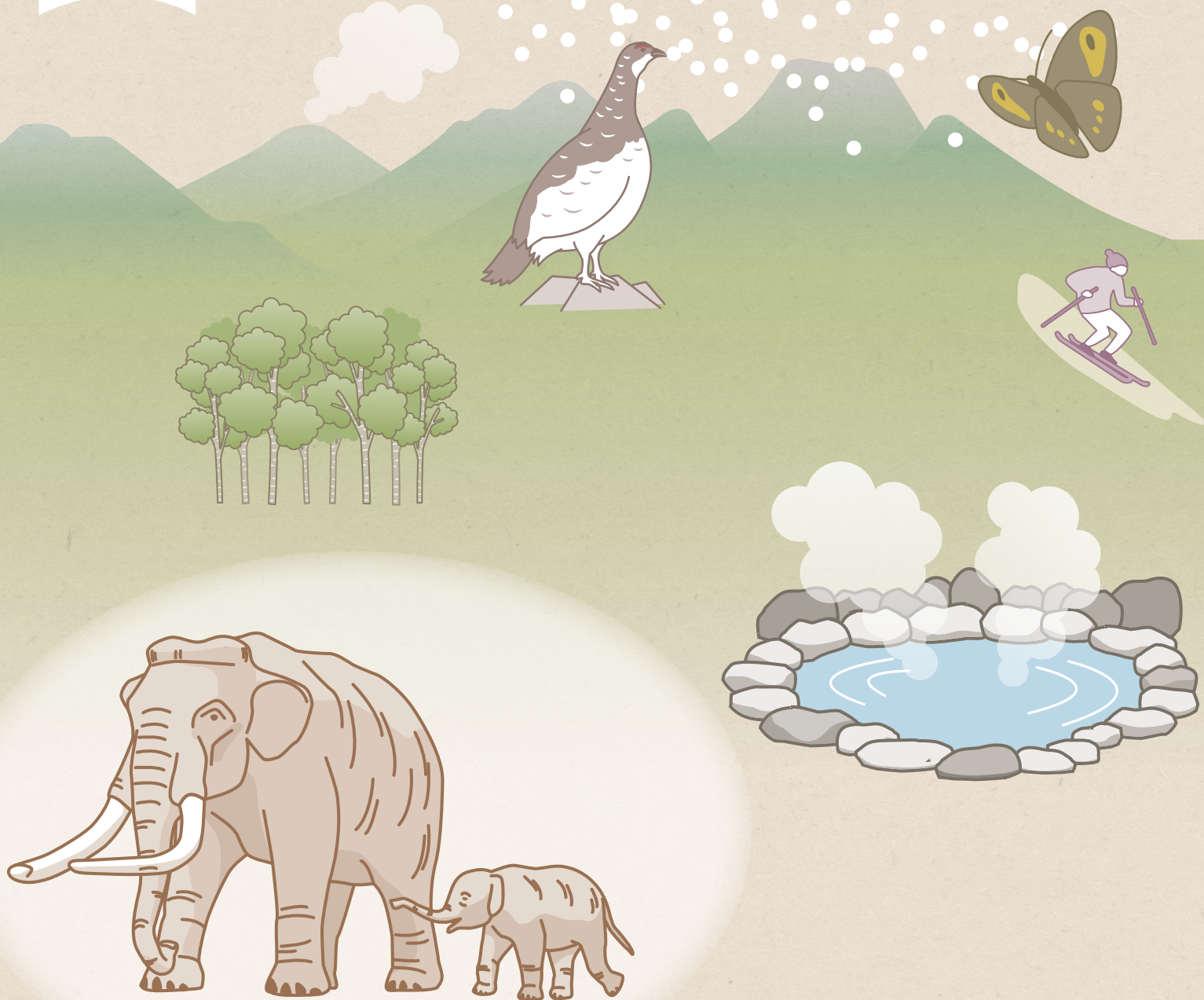
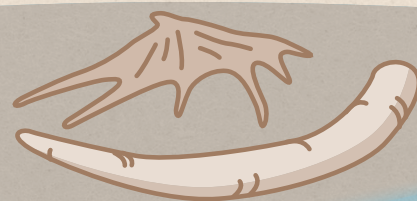


National
Parks
of Japan



妙高戸隠連山国立公園ストーリー集
一目五山の風景が語る“ものがたり”
Myoko-Togakushi renzan National Park





妙高戸隠連山国立公園全体マップ





目次

CONTENTS

chapter

1

はじめに

- 01 ストーリー集の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 02 妙高戸隠連山国立公園について・・・・・・・・・・ 3

chapter

2

種類別のものがたり

- 01 年表でいつ何があったかを知る・・・・・・・・・・ 6
- 02 一目五山の絶景を生んだ火山・非火山の結集の成り立ち・・・・・・・・ 7
- 03 世界有数の豪雪地帯・妙高戸隠連山国立公園の気候・・・・・・・・・・ 11
- 04 火山・非火山と豪雪で育まれる植生とその特徴・・・・・・・・・・ 13
- 05 豪雪とトウホクノウサギ・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 06 火山・非火山と豪雪地帯で生きる鳥たちとその特徴・・・・・・・・・・ 18
- 07 日本最北のライチョウ生息地である火打山の現状と保全の取り組み・ 20
- 08 妙高戸隠連山国立公園内に生きる両生・爬虫類とその特徴・・・・・・・・ 22
- 09 妙高戸隠連山国立公園に棲む昆虫たちとその特徴・・・・・・・・・・ 24
- 10 妙高山の信仰と資源利用・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 11 戸隠の山岳信仰と山の暮らし・・・・・・・・・・・・・ 28

chapter

3

地域の特徴と暮らしものがたり

- 01 ものがたりの見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
- 02 糸魚川・小谷エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- 03 妙高エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- 04 戸隠・飯綱エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
- 05 野尻湖・黒姫エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

はじめに

本書の使い方と妙高戸隠連山国立公園の概要を紹介いたします。

chapter 1

01 ストーリー集の目的

自然環境は、その地形・地質と気候の条件に応じた動植物が育まれ、独自の生態系がうまれます。その生態系が徐々に空気や土の性質に影響を与え、他の動植物の新たな生育の基盤となって変化しながら、長い時間をかけて安定した自然環境が成立します。

一方で、地域で生活する人々は知恵や工夫をこらし、その土地に手を加えて生活の糧を得ながら生きています。その結果、人の手が入った里地里山では多様な自然環境が作り出されることで生物の多様性が生まれ、さらに私たちに多くの恵みを与えてくれます。また土地ごとに独自の風習、文化・信仰も生まれました。

本書は、妙高戸隠連山国立公園の特有な自然環境の成り立ちや環境に適応して生育する動植物、そしてそこで生まれた独自の文化や信仰などを人と自然の関わり の観点で紹介しています。地域独自の自然環境と人の営みのつながりは地域の宝であり、本書では「ものがたり」（ストーリー）と呼んでいます。この「ものがたり」を、当公園に関わるすべての皆様に共有して、国立公園に訪れる方に伝えていくために作成しました。地域の皆様が当公園のインタープリターとして活動していただく第一歩となることを願い、初級編として編集しています。さらに「ものがたり」を体験・体感できるよう、地域の方々や関係する事業者の方々と協働で取り組みを進めていきたいと考えています。

「種類別のものがたり」は、地形・地質や植生など、分野ごとに専門家の先生方から執筆いただきました。内容はすべてを網羅すると膨大になりますので、本書を初級編として見ていただき、ここから更にステップアップされる場合は専門書や論文などを見ていただければと思います。

「地域の特色と暮らしのものがたり」は、当公園を「糸魚川・小谷」、「妙高」、「戸隠・飯綱」、「野尻湖・黒姫」の4つに分け、その地域ごとに自然と暮らし、文化などのつながりを模式図として表しています。例えば、戸隠・飯綱エリアのつながり図を見ると、「蕎麦」は、「戸隠連峰から生じた山岳信仰や標高の高さ」や「飯縄山が育む豊かな雪解け水」などとつながっていることが分かります。ただ、本書ですべてを網羅できたわけではありません。ここにはどんなつながりがあるのか、そう考えるきっかけにいただければ幸いです。



野尻湖畔とナウマンゾウのオブジェ



霊仙寺湖畔



雪に埋もれるライチョウ

02 妙高戸隠連山国立公園について

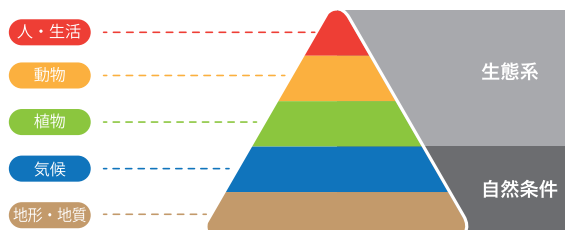
テーマ：火山・非火山の結集地～大地の営みと人々の暮らし・信仰が紡ぐ風景～

1. 国立公園であるとはどういうことか？

「妙高戸隠連山国立公園」の名称にある「国立公園」。そもそも国立公園とはどのような場所なのでしょうか。

①日本を代表する自然の風景地

国立公園は日本を代表する自然の風景地であり、自然の絶景を見ることができたり、多くの動植物がくらしている場所です。そのような国立公園の大自然は、地形・地質や気候、植物や動物、そして人の暮らしが密接に関わり合って成り立っています。風景探勝や動植物観察・トレッキングなどにより、特徴的な自然を楽しむことができます。また、国立公園内にも人々が暮らしているため、地域ごとに脈々と受け継がれてきた自然とのつきあい方があり、独自の文化や信仰が息づいています。長い時間をかけて築き上げてきた暮らしそのものも、国立公園の重要な資源であり、魅力なのです。



【妙高戸隠連山国立公園】一目五山の風景

火山・非火山が結集しているため、個性的な形の山々を、一目でいくつも見るができる。この風景を妙高戸隠連山国立公園では、「ひとめごさん一目五山」と呼んでいる。

②自然を未来に残す仕組みがある

国立公園には、未来にわたって大自然を残していくための仕組みがあります。例えば最も規制の厳しい特別保護地区では、落葉1枚・石1個持って帰ってはいけないことになっています。また、国立公園で暮らす方なら一度は聞いたことがあるであろう「建物を勝手に建ててはいけない」「国立公園では勝手に木を伐ってはいけない」といったルール。これらは、「健全な生態系を未来に残そう」「国立公園を訪れる人には、人工物でなく自然が主役の風景を見てもらおう」といった考え方から生まれたルールです。美しい国立公園の風景は、地域の方の協力によって守られているのです。



2. 妙高戸隠連山国立公園をどう伝えるか？

全国に35ヶ所ある国立公園。それぞれ際立った自然の特徴があるため国立公園に指定されていますが、当公園にはどのような特徴があるのでしょうか。

①「火山・非火山の結集地」である

「火山・非火山の結集地」になったのは、この国立公園のエリアが、激しい地殻変動が起こる場所に位置しているためです。この地域の大地の動きは何億年も前

【上信越高原国立公園】

志賀高原の山並み。なだらかな火山性高原が連なっている。

から始まりましたが、日本列島の中央部の大地が割れてその間が海となり（フォッサマグナ）、その後の地層の堆積、大地の隆起やマグマの貫入、火山の噴火など、さまざまな大地の営みが次々に起こって、妙高山や戸隠山など 2,000 m 級の高い山ができました。このように、多様な成因かつ年代の異なる山が、狭い範囲にギュッと凝縮した地域になったのです。妙高戸隠連山国立公園はかつて上信越高原国立公園の一部でしたが、この「火山・非火山の結集地」という特徴が、火山性高原が連なる上信越高原国立公園とは違います。それが認められ、平成 27 年に一つの国立公園として独立しました。

多様な成因・年代でできた山は、風景の違いをうみます。火山と非火山で山容が違うのは分かりやすいですが、同じ火山であっても生成年代によって特徴が異なります。例えば、最も古い飯縄山はなだらかな山容で土壌が発達し山頂まで植生に覆われていますが、比較的若い妙高山は複式火山の尖りが残り噴火した溶岩類がむき出しになっています。また、溶岩の末端を流れ落ちる滝があるほか、温泉が豊富に湧出しています。

そして、これらの高い山々が日本海からの雪雲を遮ることでこの国立公園に大量の雪を降らせ、ここを世界有数の豪雪地帯としています。

②「人々の暮らし・信仰が紡ぐ風景」がある

多様な成因・年代の山と豪雪は豊かな水資源となり、深い森や草原、湖沼、湿地また偽高山帯などの様々な環境をうみ、そこにはそれぞれの環境に適応した多様な動植物がくらしています。また、豪雪地帯特有のチシマザサやシラネアオイなど「日本海植生」と呼ばれる植生があったり、ライチョウなどの氷河期からの生き残りと考えられる動植物がくらしているのも、大切な特徴です。

また、この国立公園は寒くて雪が多い山岳地帯ですが、古くは旧石器時代から、高原地帯で多くの人が暮らしてきました。火山の山で^{かんよう}涵養される大量の雪解け水はゆっくりと里へ運ばれ人々の生活を潤し、温泉にもなり、また、豊かな森は木の実や山菜、キノコなどの食べ物を提供してくれます。このように、厳しくも人々の暮らしを支える十分な自然が、ここにはあるのです。この国立公園の多くの山が、その独自の山容や水の豊かさで山岳信仰の対象となり今なお息づいていることは、この地域の人々と山との関わりがいかに深いものなのかを、私たちに教えてくれているのでしょう。

～妙高戸隠連山国立公園 基本情報～

- ・面積：39,772ha（35 国立公園のうち、19 番目の大きさ）
- ・関係市町村：新潟県糸魚川市・妙高市・長野県長野市・信濃町・飯綱町・小谷村
- ・上信越高原国立公園の一部として国立公園になった年：昭和 31 年
- ・上信越高原国立公園から分離独立した年月日：平成 27 年 3 月 27 日



※公園計画図などは、こちらをご覧ください。



妙高戸隠連山国立公園のロゴマーク

3つの山は、妙高戸隠連山の山々が連なる様子を表し、それぞれのパーツは山麓に点在する高原（黄緑）や湖沼（水色）を表しています。

また、山部分で妙高の M を、高原と湖沼部分で戸隠の T（横向き）を組んでいます。